



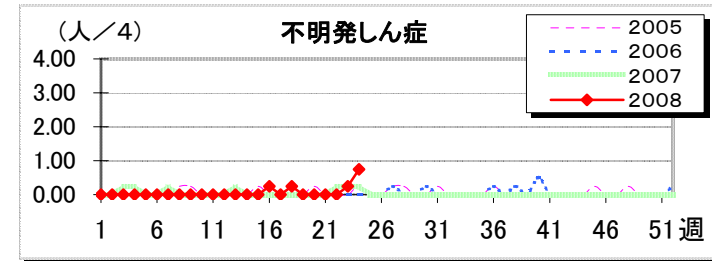
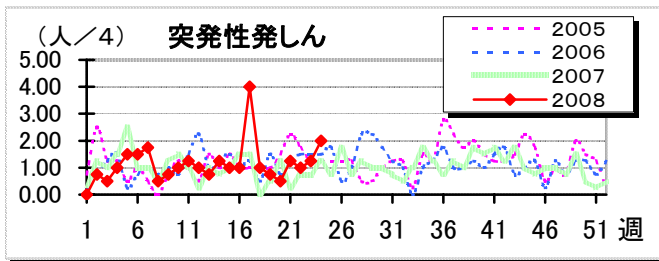
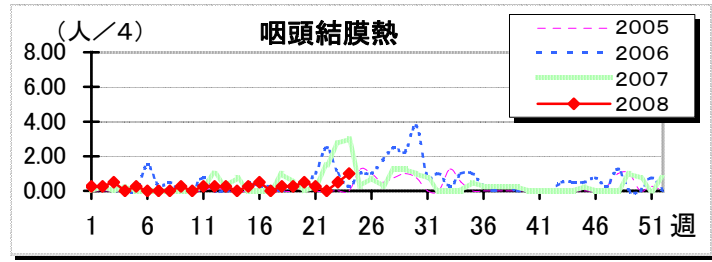
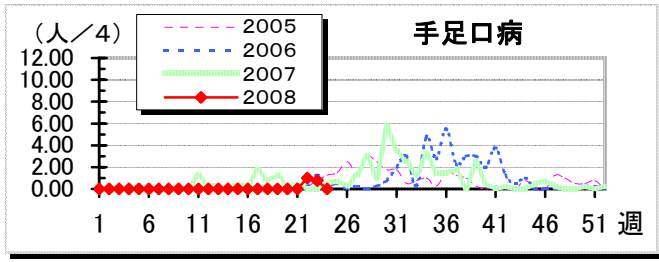
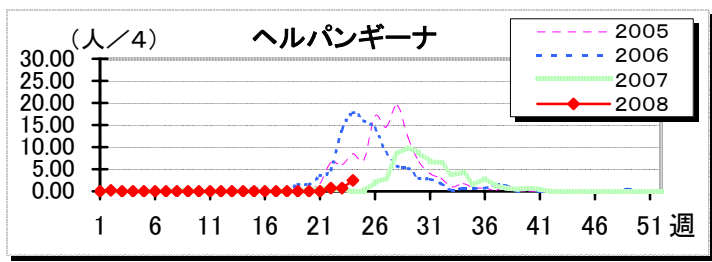
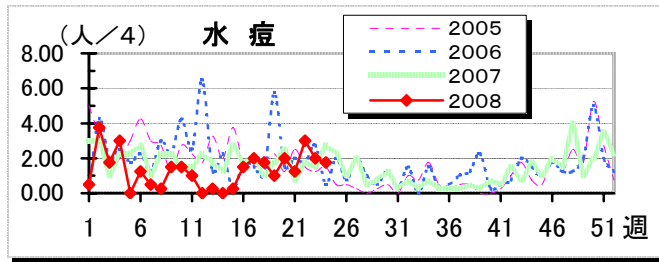
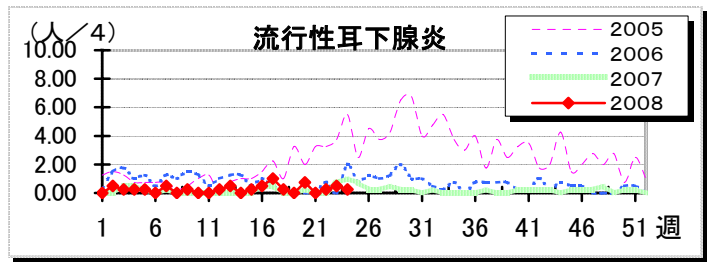
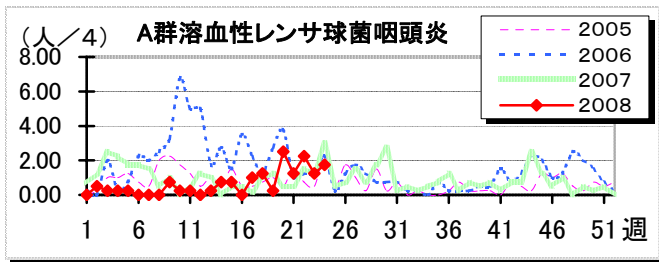
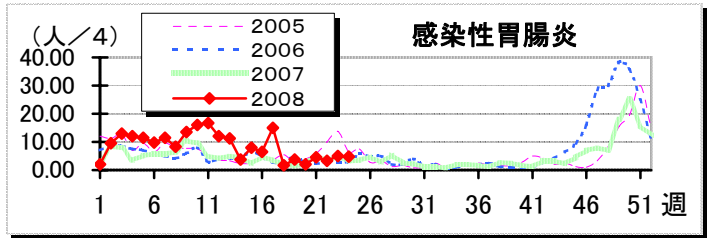
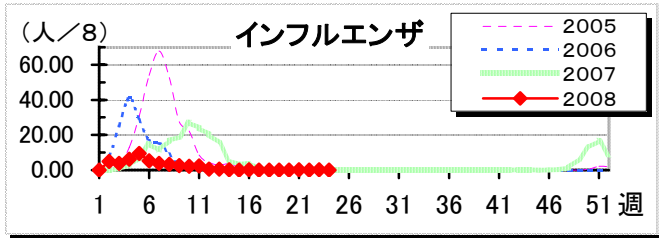
# Infectious Diseases Weekly Report City of Kita

## 感染症発生動向調査／北区感染症週報

2008年24週(6月9日～6月15日)

東京都北区保健所 保健予防課 結核感染症係 電話 (3919)3101

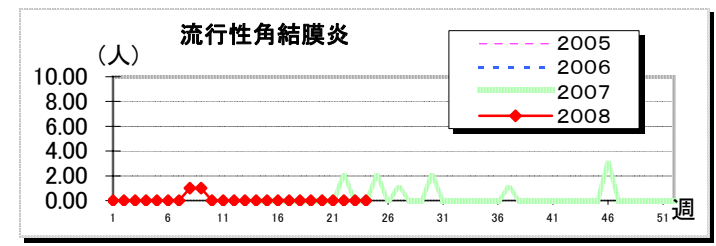
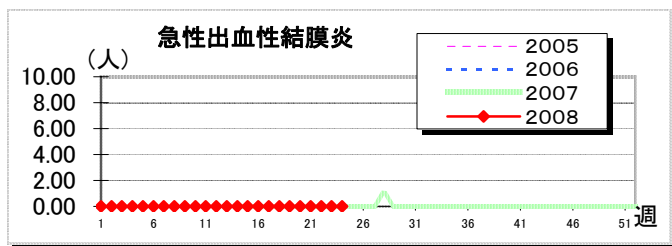
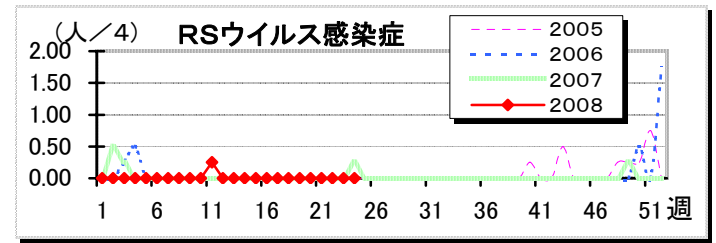
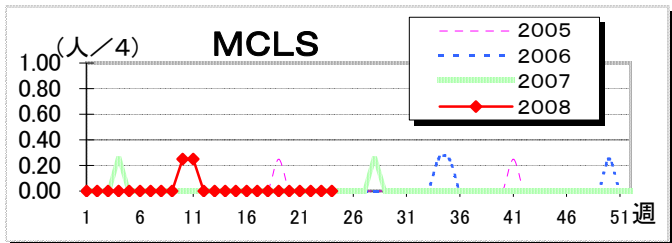
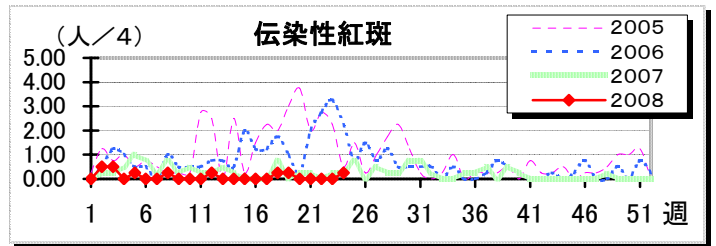
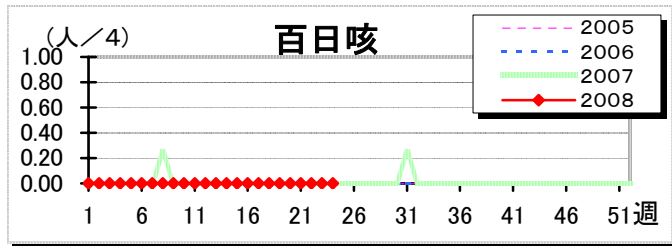
### 1 北区感染症サーベイランス (4年間の北区一定点医療機関あたり報告人数)



### 今週のコメント(第24週)

■ 今週は内容が多く紙面を分けたので別紙をご参照ください。

※「麻疹」、「風しん」は2008年1月から全数把握対象疾患【5類感染症】になりました。



疾病別の<北区>定点医療機関数

疾病	医療機関数	疾病	医療機関数	疾病	医療機関数
インフルエンザ	8	手足口病	4	急性出血性結膜炎	1
不明発しん症	4	伝染性紅斑		流行性角結膜炎	
MCLS		突発性発しん		性感染症	
咽頭結膜熱		百日咳			
A群溶血性レンサ球菌		ヘルパンギーナ			
感染性胃腸炎		流行性耳下腺炎			
水痘		RSウイルス感染症			

※ 最近3週間の北区一定点医療機関あたり報告人数 (区内定点からの全報告人数/北区定点医療機関数)

	不明発しん症	MCLS	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
21週	0	0	0	0	2.25	3.25	3	1	0	1	0	0.75	0.25	0	0	0
22週	0.25	0	0.13	0.5	1.25	5	2	0.75	0	1.25	0	0.75	0.5	0	0	0
23週	0.75	0	0	1	1.75	4.75	1.75	0	0.25	2	0	2.5	0.25	0	0	0

2 北区内の医療機関からの麻しん、風しんの届出数

	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	2008年累計
麻しん	2	1	0	2	1	0	1	2	22
風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律から、最近の感染症発生動向を送付いたします。東京都および、厚生労働省による集計分については下記のインターネットのホームページでご覧になれます。

- 東京都感染症情報センターのホームページアドレス  
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/weekly/index-j.html>
  - 厚生労働省/国立感染症研究所感染症情報センターのホームページアドレス  
<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
- (別紙) 定点把握対象疾患報告数【保健所別】、【年齢階級別】

今週のコメント (第24週)

- 百日咳の定点当りの報告は全国的に増加し、過去5年間の同時期に比べかなり多くなっています。東京都内でも百日咳の報告数は増加し、2007年、2008年で最も多くなっています。区内の定点からの報告はありませんが、成人における流行が特徴でよりいっそうの注意が必要です。乳幼児が感染した場合は重症化することが多く、ときには死にいたることがあるので、ワクチンは確実にお受けください。成人においては、乳幼児に感染させることのないよう、咳エチケットを守るとともに、咳が長びくと感じたら百日咳を念頭に早めに医療機関を受診してください。詳しくは、東京都感染症情報センターのホームページをご覧ください。  
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/pertussis/index.html>
- 感染性胃腸炎の定点当りの報告数は例年と比較すると依然として多い状況であり、突発的な集団発生が今後も予想されますので、注意が必要です。感染予防対策として、日常的に、外出後や食事前の手洗い・うがいを徹底しましょう。吐物や排泄物の処理時にも注意が必要です。詳しくは、東京都感染症情報センターのホームページをご覧ください。  
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/noro/index.html>
- 咽頭結膜熱及びヘルパンギーナの報告が増加しています。これらの感染症は例年、夏から初秋にかけて増加する傾向があります。
- 咽頭結膜熱は、例年6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを示す夏期の感染症で、プールを介して流行することが多いので、プール熱と呼ばれています。症状は以下のものがあります。
  - ・発熱 (38℃～39℃)
  - ・咽頭炎 (のどの痛み)
  - ・眼症状 (目の炎症、結膜炎)
 咽頭結膜熱の予防のためには、
  - ・感染している人との接触は避けること。
  - ・流行時にうがい、手指の消毒を励行すること。
  - ・水泳前後のシャワーを励行すること。
 以上を守るようにしてください。
- ヘルパンギーナは、夏に多く見かけるウイルス性(コクサッキーウイルス)の感染症です。乳幼児の間で流行しやすい夏かぜの一種で、38～40度の高熱が2～3日続きます。のどの奥に小さな水ぶくれができます。これがすごく痛いので、飲んだり、食べたりができなくなることもあります。水分が十分にとれないと、脱水症になることもありますので注意が必要です。水分は十分にとらせてください。潜伏期間は3～4日です。登園や登校は、熱が下がり、のどの痛みもとれて、食事も含めて普通の生活に戻ってからです。(学校伝染病に指定されていて、「症状により学校医その他の医師において伝染のおそれがない」と認められたら、出席できることになっています。) ヘルパンギーナの感染予防のためには、基本的な手洗い、うがいを習慣づけることがもっとも重要なことです。

(参考) 北区内の医療機関からの麻しん、風しんの届出状況【グラフ】

